

小田原市の果樹園地域における獣害対策 -わなオーナー制度の提案-

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス
一ノ瀬友博研究室

プロジェクトメンバー

4年 阿久澤 萌

3年 岸本 慧大

3年 菅田 悠介

2年 岩本 将道

2年 牧 大我

2年 安齋 励應

1年 石井 華香



目次

- 1. 研究内容
- 2. 進捗状況と成果
- 3. 課題点
- 4. 事業展開（今年度・次年度）

1. 事業内容
1.1 対象地



1. 事業内容

1.2 研究方法

被害状況に関する聞き取り調査

石橋地区の住民へ聞き取り調査を実施

- ▶野生動物の目撃地点や被害多発地点を地図に落とし込む



イノシシ生態調査

聞き取り調査の結果をもとに、自動撮影カメラを設置

- ▶イノシシの行動や出没場所を特定する



ドローンによる撮影

ドローンを用いて石橋地区の撮影を実施

- ▶土地被覆の様子を明らかにする



獣害マップの作成

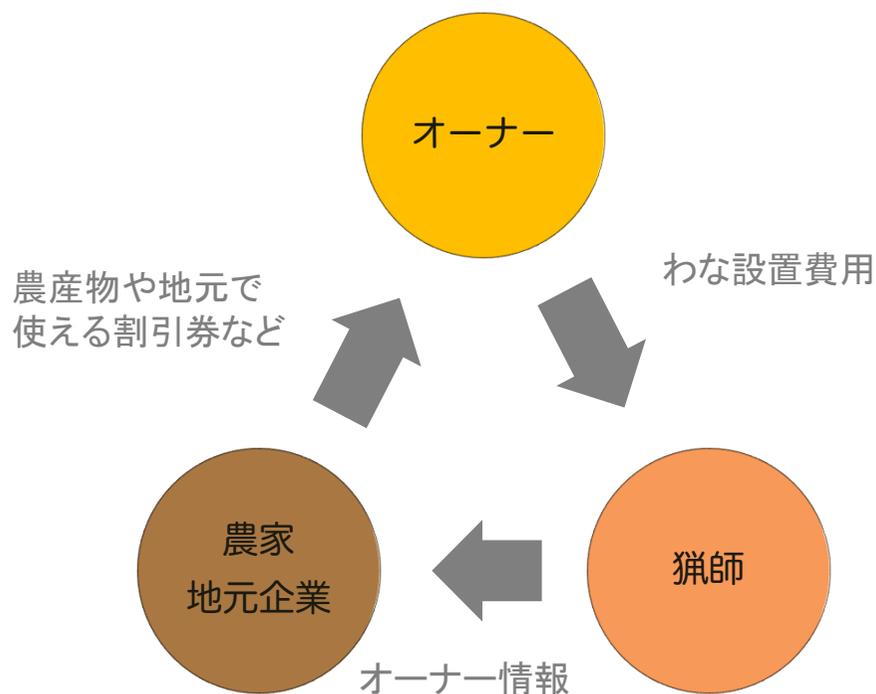
GISを用いて耕作放棄地・樹園地・獣害発生地の関係を分析し石橋地区獣害の特徴を明らかにする

1. 事業内容

1.2 研究方法

わなオーナー制度の提案

地域ぐるみの獣害対策としてわなオーナー制度を提案・実施する。
単に獣害を駆除するのではなく、比較的可見で小田原市の獣害対策に関わってもらい、小田原地域でお金を使ってもらえる仕組みである。



2. 進捗状況

聞き取り調査

8/30

石橋地区の自治会役員 9 名に聞き取り調査を実施(写真1)

9/15

石橋地区老人会 21 名にアンケート調査を実施(写真2)



写真1



写真2

2. 進捗状況

イノシシ生態調査

7/25-8/10

石橋地区の自治会役員の方が所有する水場周辺に自動撮影カメラ1台を設置

8/10-8/30

又タ場と思われる場所に自動撮影カメラ1台を設置(写真3・4)

10/14-11/1

イノシシがよく目撃される森林周辺にカメラを5台設置



写真3



写真4



写真5 サルやイノシシに食べられたミカン



写真6 イノシシに枝が折られたミカン



写真7 イノシシによる掘り返し跡

08/10/2017 23:14:48 20 Sec



2. 進捗状況

ドローンによる石橋地区の撮影

8/12・9/29

ドローンを用いて石橋地区を上空から計2回の撮影を実施(写真8, 9, 10)



写真8 撮影の様子



写真9 使用したドローン



写真10 ドローンで撮影した石橋地区

3. 成果と考察

石橋地区における獣害対策の現状

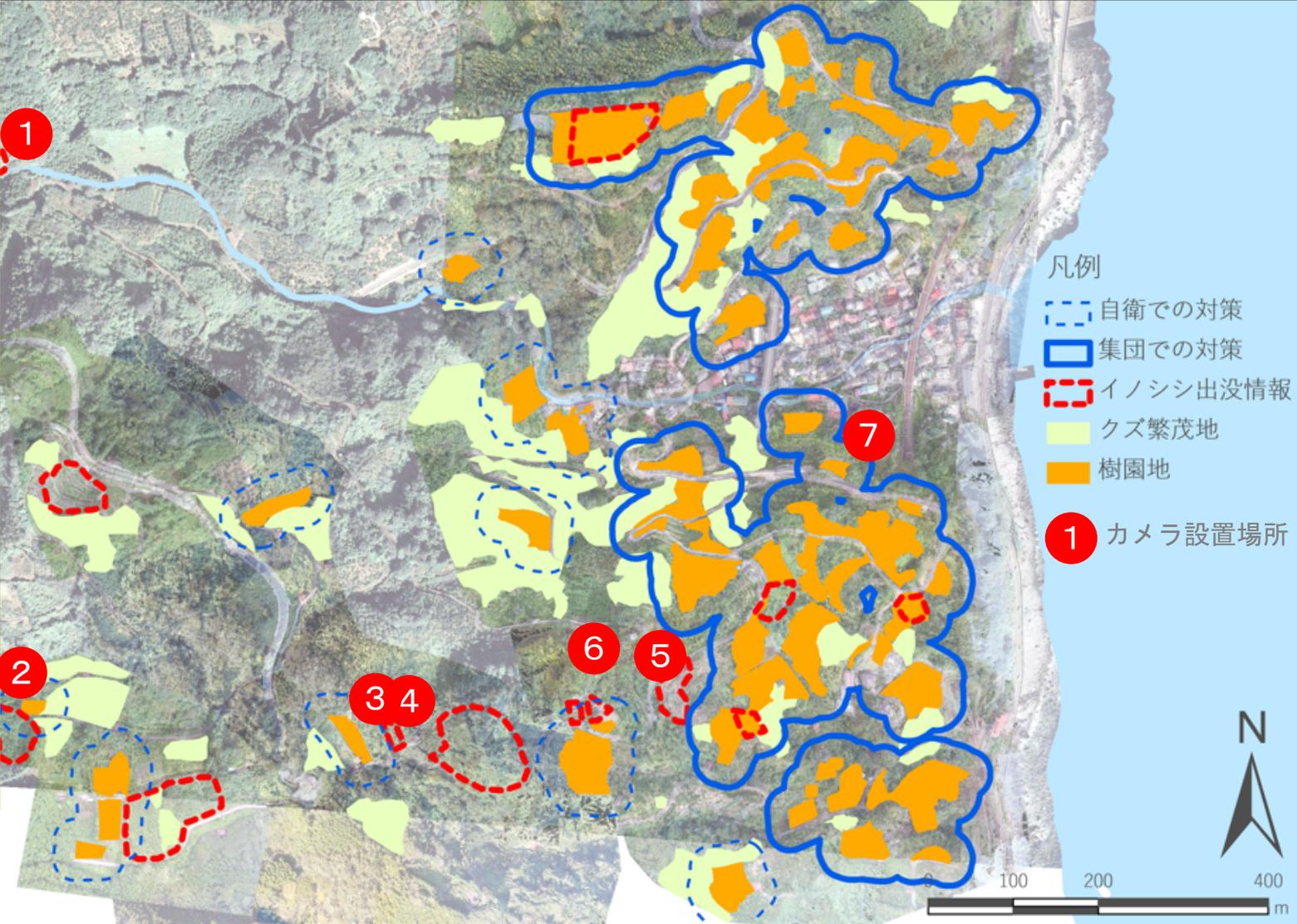
- 農業従事者の多くが高齢かつ後継者不足
- 獣害が日常化し対策への関心が薄れてしまっている
- 十分な対策が実施できていない

GISを用いた分析

空間分布の視点から現在使用されている樹園地が、より住居に近い畑地に集約されていることが明らかになった

石橋地区における獣害マップを作成

石橋地区における獣害マップ



3. 成果と考察

3. 成果と考察

わなオーナー制度

農家
地元企業

- ・みかん狩り体験
- ・地元飲食店の割引券



オーナー

- ・オーナー限定の体験ができる
- ・箱わなの設置の費用を負担



猟師

- ・箱わな設置
- ・捕獲時の止め刺し



樹園地の生物多様性を 生かした取り組み

企業

- ・CSR活動として支援



環境団体

- ・生物調査
- ・観察会



一般市民

- ・樹園地の草刈り
- ・参加した人だけの特典

4. 課題点

土地利用調査

- ・ 耕作放棄地を判別しきれていない

イノシシ生態調査

- ・ イノシシの生息数
- ・ 樹園地まで移動経路

わなオーナー制度

- ・ くくりわな使用に伴う危険性
- ・ 箱わなの確保
- ・ 箱わなの見回り人員の確保

5. 事業展開

今年度

箱わなの設置実験を実施しイノシシの捕獲を試みる

クラウドファンディングを利用した実証実験

わなオーナー制度の事業計画書を作成



次年度

獣害調査

イノシシの移動経路や個体数を推定する

土地利用調査

クズ繁茂地以外の耕作放棄地の分布を明らかにする

わなオーナー制度

わなオーナー制度運営の準備段階として猟場の選定、地元企業との連携、猟師の確保を行う

ご清聴ありがとうございました

